

長瀬町の今後の学校のあり方について

長瀬町では、児童生徒数の推移を踏まえ、長瀬町立小学校及び中学校の将来を展望した学校のあり方について、幅広い見地から検討するため、学校のあり方検討委員会を設置し、学校の適正規模、適正配置等について協議を行っています。

今回は、長瀬町立学校の現状を示し、その対策にはどのような方法があるのか、また、今後はどのように話し合っていく予定なのかをお知らせします。

小中学校を取り巻く現状

近年の全国的な少子化の傾向は、当町も同様で、児童生徒数は減少しており、今後においてもその傾向が続くことが予想されます。

令和2年度、第一小学校は第一学年以外は1学級の単学級となっており、第二小学校では、全ての学年が1学級の単学級となっています。

なお、現時点では、来年度から第二小学校の2、3年生が複式学級になる予定です。

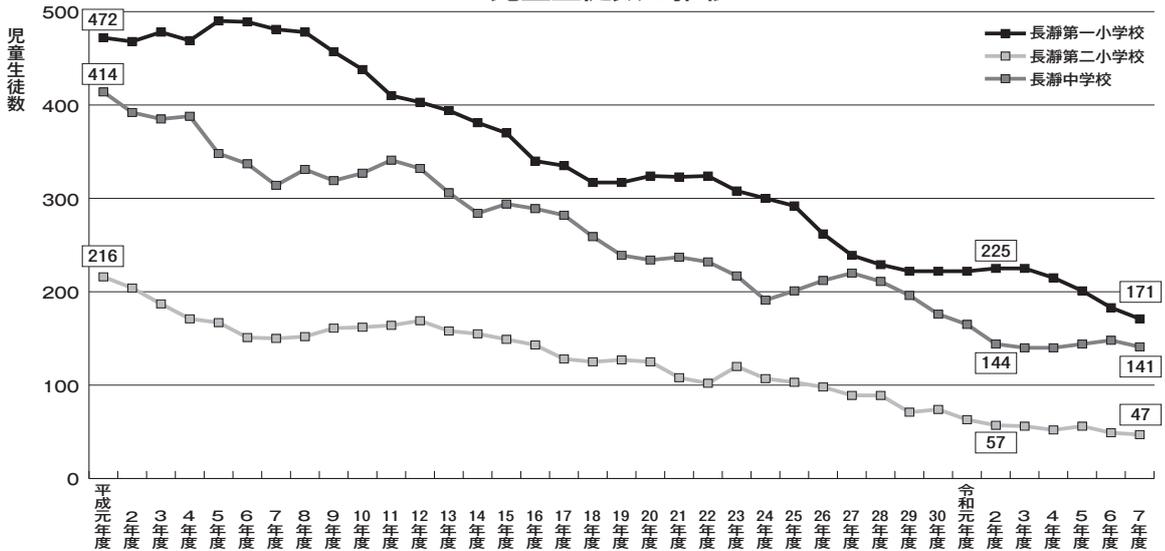
以下の表は、各学校の学級数や児童生徒数の推移と推計をまとめたものです。

令和2年度・各学校の児童生徒数と学級数

学校名	児童・生徒数									学級数							
	通常学級						特別支援学級	合計	通常学級の平均児童生徒数	通常学級						特別支援学級	合計
	1年	2年	3年	4年	5年	6年				1年	2年	3年	4年	5年	6年		
第一小	38	34	33	37	39	34	10	225	31	2	1	1	1	1	1	2	9
第二小	9	7	12	10	10	7	2	57	9	1	1	1	1	1	1	2	8
小学校合計	47	41	45	47	49	41	12	282	21	3	2	2	2	2	2	4	17
中学校	46	50	46				2	144	24	2	2	2				2	8

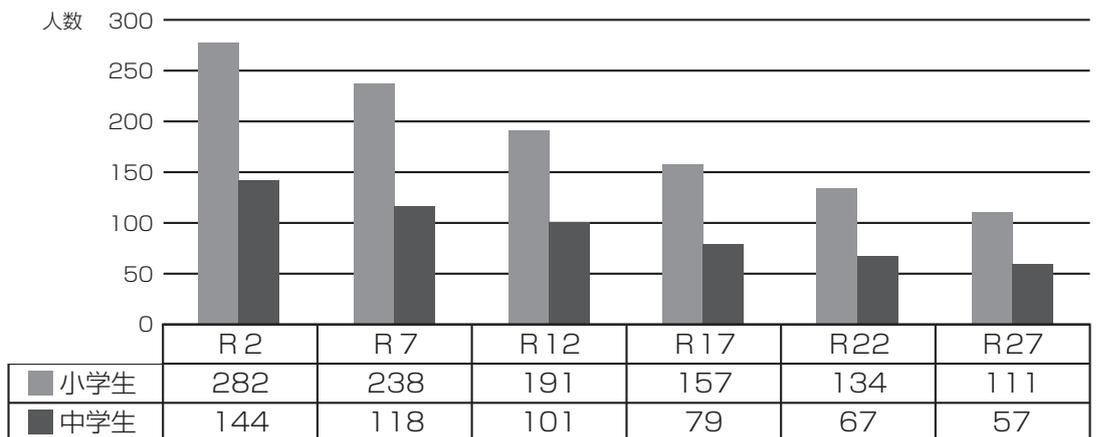
令和2年5月1日現在

児童生徒数の推移



※推計は令和2年5月1日現在の児童生徒数及び出生数から求めた人数です。

児童生徒の将来推計



推計は国立社会保障・人口問題研究所「日本の地区別将来人口推計(2015 国勢調査)」をもとに教育委員会で試算。なお、この推計には長瀬町で行っている各種政策の効果や社会経済環境などの変化は、見込んでいません。

このような状況の中、学校の小規模化に伴う様々な課題が、長瀬町においても生じることが懸念されますが、対策としては、どのようなものがあるのか考えてみます。